

# たんぽぽ うしん

[発行・編集] 社会福祉法人 札幌協働福祉会／アクティビティ・サポートセンター協力会  
〒002-8055 札幌市北区篠路町福移147-3 TEL:011-792-3969/FAX:011-792-2887  
HP <http://sapporo-kyoudoufukusikai.jp> E-mail:info-honbu@sapporo-kyoudoufukusikai.jp

## 福島原発被災の子どもに北海道で夏休みを

### —「おもいきり夏休み in ほっかいどう」事業—

東日本大震災による福島第一発電所の事故は、依然収束の見通しが立たず、高い放射線量のもとで人々は生活を強いられています。福島の子もたちは暑い日でも常時、長袖・マスク・帽子を着用し、見えない放射能の不安に窮屈な学校生活を送っています。

福島の子もたちのおかれた状況、保護者の切実な気持ちを推察し、札幌協働福祉会は、夏休みだけでも、北海道で過ごしていただき、思いっきり「きれいな空気」「豊かな自然」「おいしくて新鮮な食べ物」を満喫して、免疫カアップを図っていただくことができると、札幌(拓北・あいの里)でのホームステイと仁木町での自然体験学校(野外活動)を実施することにしました。

**札幌協働福祉会は、この事業を「おもいきり夏休み in 北海道」事業と名づけ、福島原発被災の子どもへの支援として取り組みます。**

#### <対象とする人>

福島原発の事故による放射能被害から一時避難させたいと思っている保護者の方のお子さん。  
小・中学生(障がい児歓迎)20名。

<受け入れ期間> 7月28日～8月17日 \*7月28日 歓迎会 \*8月16日 送別会

<往路> 7月27日 郡山発 <復路> 8月18日 郡山着

■ホームステイ 受け入れ家庭(拓北・あいの里) 7月28～30日 8月15～17日

■自然体験学校 山の家きょうどう(仁木町東町緑ヶ丘114) 7月31日～8月14日  
森の虫観察 酪農・農産物加工体験 キャンプ・水泳 登山・ハイキング他

#### 【現地窓口】

ハーメルンプロジェクト(郡山市) 福島県郡山市台新2丁目24-30 担当: 笹田 浩司

※北海道には「チェルノブイリのかげはし」というチェルノブイリ原発で被爆した子どもたちへの保養里親の優れた運動があります(2面参照)。

#### ◎2011あいの里あいあい祭

■7月30日(土)15:00～21:30 7月31日(日)10:00～17:00

場所:北海道医療大あいの里キャンパス駐車場

主催:あいの里あいあい祭実行委員会

#### ◎第16回拓北盆まつり

■8月6日(土)14:00～20:30 8月7日(日)11:00～20:00

場所:拓北西公園 主催:拓北盆まつり実行委員会

共催:拓北商工会・ひまわり団地自治会

#### ◎あいの里ふるさと商興まつり

■8月6日(土)15:00～21:00 8月7日(日)13:00～19:00

場所:あいの里・東光ストア東側遊歩道 主催:あいの里商工振興会

#### 《お礼》

東日本大震災復興支援活動への御寄付を戴きました。ありがとうございました。

◎あい～愛ウォーク実行委員会様

2011年5月～  
2011年6月

# 災害ボランティア派遣報告

## 福島県での支援活動

### 原発避難所田村市旧春山小学校での支援



#### ◇はじめに

台風2号が過ぎ去った5月31日、苫小牧港を出発し、仙台港に6月1日に到着、「がんばろう日本」「がんばろう東北」という横断幕を掲げた車両と途中行きかい、目的地の福島県田村市につきました。

避難されている方は福島原発事故から30キロ範囲内の田村市都路地区の約170人の方々旧春山小学校を利用して先のない避難所生活をされています。

#### ◇原発大国の悲劇

ピカ・ドンは？ 広島・長崎の原爆投下…。一瞬の熱線によって何もかも失われ、すべてが黒焦げになってしまいました。日本はそのマイナスから相違と工夫、英知と勤勉さで豊南国となりました。その一方で被爆国ゆえの核のない世界という声高のトーンが小さくなったと感ずるのは僕だけでしょうか。その答えは、世界の原発基稼働数。総数436基、1位は米国104基、2位はフランス58基、日本は3位の54基、この3国で約半分を占めています。日本は立派な原発大国です。ドイツ等は廃止の方向です。今回の福島原発事故により、安全神話は消え去りました。故郷から離れざるをえなかった人々、日本、そして広範な人々と共に放射能との長い永い闘いに向かっています。

#### ◇チェルノブイリのかけはし

チェルノブイリの原発事故から25年が経ちました。4月26日だったと思います。その事故があって、主婦の野呂美加さんが「チェルノブイリのかけはし」を立ち上げました。それは大自然豊かな北海道で、被爆された子どもたちを受け入れ、健康を取り戻そう、との発想からでした。年賀状の書き損じ葉書集め、フリーマーケット等で費用を稼ぎ、25年経った今でも地道にその支援活動を行っています。放射能は体内で蓄積され、甲状腺・

リンパ腺・白血病など健康に害を与え、被爆2世・3世にまで影響を与えます。毎年、少年少女達20人程がベラルーシから来日され、保養里親運動が続けられています。

#### ◇田村市での活動内容

活動内容は、社会福祉協議会のボランティアセンターのお手伝いでした。主に病院・歯科・役所など車での移送サービス、他には健康体操・相談受付、各地からの慰問の受け入れやその他会場作りなどの活動でした。70～80歳くらいの年齢の方が主でしたが、約3カ月経ち落ち着いた雰囲気でした。

旧学校内には行政による相談窓口・診療所・看護室もあり、屋外には自衛隊提供のお風呂も用意されています。放射線による汚染度は0.15マイクロシーベルトで、外で洗濯物を干している光景でした。しかし課題は山積みしています。早く家に帰りたいが先は見えない。これから夏本番を向かえ、熱中症や伝染病・衛生面が心配。20年ほど前に福島県をブラリ旅したことを思い出されます。田園風景が続き、城とか歴史のある建物がありました。今回このようなことになるとは思いませんでした。

#### ◇明日はわが身か、想定外の事態が発生

24年前の泊原発が思い出されます。共和町・泊村周辺に住む漁業者・農業者や地域住民、労働組合員等の建設反対派と賛成派で入り乱れての大騒動となりました。誘致派の言い分は、町にお金が潤う、仕事が見つかる、多少の危険があってもいい仕事だ、との主張でした。政府と北電は民を排し、強引に推し進めました。明日はわが身、泊原発で事故発生！ あなたはどうしますか。想定外の事態が今発生しているのです。

(あいのさとサポートセンター 今村 廣)

## 宮城県石巻市での支援活動

### 21年間の価値観や考え方を大きく変える体験

私は、5月24日～6月2日まで、石巻市の移動支援ボランティア・レラで活動をさせていただきました。

活動内容は主に、被災され移動手段がなくなってしまった方やタクシーでは移動できない方の移動手段として、ストレッチャーで移送をする活動でした。利用者は車いすの方がほとんどで、移送先は病院や入浴場でした。また、一件だけ犬を動物病院に搬送したこともあり(写真・左)。



ここでの9日間の経験は私にとって、生まれてからの21年間の価値観や考え方を大きく変えてしまう体験になりました。震災の恐怖を初めて知り、石巻の方たちと様々な会話をし、家族の大切さに気付かされました。今まで当たり前と思っていたものの見かたを見直すきっかけを頂きました。この経験を活かして、これから様々なことに取り組み頑張りたいと思います。

(あいのさとサポートセンター 坂上 友)

### 被災100ヶ日の慰霊祭に参加して

拓北・あいの里地区社会福祉協議会相談役  
三上 武美

6月14～23日、札幌協働福祉会の一員として宮城県石巻市で移動支援ボランティア・レラに参加させていただきました。苫小牧よりフェリーで行ったのですが、大洗海上では今でも海にガレキがプカプカ浮いているのが見られました。仙台に入るとやはり被災のひどさにびっくりしました。石巻市に入ると街の道路はきれいにガレキや泥が撤去され、普通の街並みに見えたのですが、商店街のシャッターは軒並みに下りていてまったく活気がありませんでした。地元の人は「昔は銀座街、今はシャッター通り」と呼んでいました。

レラの本部に着くと早速、被災地を見せていただくこととなり、海岸側や旧北上川の周辺の地域に行きました。海岸側は無残にも鉄くだけが残る建物がほとんどで被災の大きさにおどろき、絶句しました。日本製紙の大きな建物が1Fは壁も何も無く無残な姿になっており、前の海岸はガレキの山でいっぱいでした。これは本当に想像以上のものでした。



この後すぐ移送介助に入りましたが、道路が狭く、一方通行が多く、道路標識が全くなくドライバー泣かせの地域でした。これを解消するのがナビの役目なのですが、その仕事をするのが介助者です。私はナビが出来なく、いつもドライバーに迷惑をかけておりました。このような移送支援が毎日の仕事で、一日70～80人の移送をしております。行き先は病院・ショッピング・入浴・自宅の掃除・整理など様々ですが、この週は被災100ヶ日の節目として法要や慰霊祭がありましたので、その会場やお寺への移送が沢山ありました。

18日には慰霊祭会場へのお迎えがあり、待ち時間を利用してもらい私も顕花させていただきました。とても立派な祭壇でした(写真・左下)。

この様に、石巻では8日間支援活動をさせていただきました。とても忙しかつたのですが、教えられること、考えさせられることばかりで私自身、得るもの沢山ありました。逆に元気をもらって帰ってきました。被災された皆様の一日も早い復興を願っております。

避難所で落語を披露  
（藤花亭梅珠さん・アトセンター職員）



# イベント報告コーナー

6/4(土)  
6/5(日)

## 「ジェントルティーチング」 研修&講演会

6月4日(土)、5日(日)に「ジェントルティーチング」講演会及び研修会が「拓北・あいの里地区センター」を会場に行われました。

4日は主に法人スタッフを対象に行われ、会場には約160名の参加者が集まり、冒頭、全員で今回の災害で亡くなられた方々へ黙とうが捧げられました。

また、東日本大震災で亡くなられた幸泉学園前施設長の小沼勝一さんについて岩崎先生が講演の冒頭で故人を偲びお話されました。



講師の岩崎正子先生

研修会は午前中、社会福祉法人桃花塾理事長の岩崎正子先生より資料映像等を交えながら約2時間の基調講演をされ、午後は、事例発表やグループ討議が行われました。

前日には、地域の方を対象に講演会が行われ、二日間で200名を超える参加者がありました。



1分間の黙とうを捧げる  
参加者 11:55 午前

6/11(土)

第11回

## 高岡・スウェーデンヒルズ祭

6月11日(土)午後、札幌協働福祉会では当別町高岡にある当別・高岡アクティビティーセンターを会場に「高岡・スウェーデンヒルズ祭」を開催いたしました。

このイベントは今年で第11回目を迎え、芸能発表やお楽しみ抽選会など盛り沢山のプログラムが用意されました。

会場は屋内、屋外に設けられそれぞれに大勢の来場者で賑わいました。



心配されていたこの日の天気は穏やかなお祭り日和となり、参加された皆さんは初夏の日差しの下でお祭り気分を十分満喫しました。

6/13(月)

## 日口文化交流



6月13日(月)午後、サハリンから「第20回YOSAKOIソーラン祭」出場のため来道していたサハリンチームが北区あいの里でも見事な踊りを披露しました。踊りの熱気は観客にも伝わり、観客も参加して踊りが「ひとつ」になりました。

<報告:田村 隆>